



かんでんち なか  
乾電池の中はどうなっているの

かんでんち  
マンガン乾電池のつくり

ふつう、電池というと、マンガン乾電池のことを、さしていることが多いので、マンガン乾電池のつくりについて、説明します。

電池の真ん中に、プラス極の、炭素棒があります。この炭素棒のまわりに、二酸化マンガんと、塩化亜鉛を混ぜたものが、入っています。その外側は、マイナス極の亜鉛かんで包まれています。

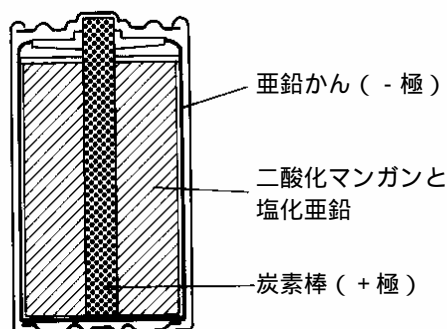
かんでんち  
アルカリ乾電池のつくり

マンガン乾電池は、あまり長もちしません。わりあい長もちするものに、アルカリ乾電池があります。

アルカリ乾電池は、電池の真ん中に、真ちゅう（銅と亜鉛との合金）の棒があって、そのまわりに、アルカリを加えたペースト状（のり状）の亜鉛で固めた、マイナス極があります。そして、その外側を、プラス極の二酸化マンガんが、かこんでいます。

（監修・青木 国夫）

マンガン乾電池



アルカリ乾電池

